

題 目 日本人男性は本当に草食系なのか？-恋人略奪行動の社会間比較-

氏 名 中前綺捺

指導教官 結城雅樹

Schmitt et al. (2004) は、パートナーの略奪という行為は世界共通の配偶戦略であり、特に男性において競争が激しいと主張する。しかし 2009 年に「草食男子」が流行語大賞にノミネートされたように、現代日本社会では中性的で「草食」な男子が目立つようになり、その競争が抑制されているように見える。草食（系）男子とは、「心が優しく、男らしさに縛られておらず、恋愛にガツガツせず、傷ついたり傷つけたりすることが苦手な男子のこと」（森岡, 2009）であり、近年こうした草食系男子が日本国内で増加しているという指摘がある（渡辺, 2010）。果たして、本当に日本人男子は草食なのだろうか。この問いに答えるため、本研究は社会環境構造である関係流動性（Yuki et al., 2007）に着目し、関係流動性がパートナーの奪い合いなどの恋愛関係における競争行動の性差に及ぼす影響を検討した。関係流動性は、個人を取り巻く社会環境や社会的状況に存在する対人関係の選択肢の多寡や、既存の関係の維持・解消に対する選択の自由度と定義されている。高関係流動性社会では、新たな対人関係を形成あるいは集団に所属する機会が多く、既存の関係の維持・解消に対する選択の自由度が高いため、恋愛関係においてより魅力的なパートナー獲得をめぐる競争が起きやすい。一方で、低関係流動性社会では新規対人関係形成や新規集団に移動する機会が少なく対人関係が固定的であるため、既存の関係性の維持に努めることが適応的である。そのため、低関係流動性社会では魅力的な人物をめぐる競争が抑制されると考えた。以上の仮説を検証するため、関係流動性の異なる社会状況下で生活する日本人とアメリカ人を対象に質問紙調査を行い、恋人獲得のための競争に対する努力度を尋ねた。その結果、友人の恋人、あるいは同じ人を獲得しようと友人と競争する状況下で男女ともに日本人の方がアメリカ人より努力することが明らかとなった。また、男女ともに日本人の方がアメリカ人参加者より、既に恋人がいる相手を獲得しようと努力している人に対して、周囲は高い評価を下すだろうと予測した。以上の結果は日本人男性が草食系になりつつあるという議論とは矛盾する。さらに、日本人に比べてアメリカ人は新たな恋愛関係よりも既存の友人関係を重視するという日米の友人関係に対する意識の違いや、日本人女性が肉食化している可能性も見られ、今後更なる対人/恋愛関係における研究が必要とされるだろう。